

昭和神聖會福岡支部發會記念講演會狀況

- 一、日 時 昭和十年一月二十六日自午後八時至午後十一時
- 二、會 場 福岡市西中洲 縣公會堂
- 三、參加人員 約一、〇〇〇名
- 四、講演會內容

- 1、開會の挨拶 司會者 石田新之輔
- 2、講 演

○國內問題の解決 豫備工兵大佐 井 輝 新  
滿洲は帝國となり世界の耳目は日本の皇道精神に集り而して  
産業に於ては海外に進出し今や世界の樞舞臺に進んだのであ  
る、この我國の國內を見るに聊か不安を感じずるものがある、  
樞舞臺に出た日本は人を要求してゐる純心で私利を離れ經倫  
を持ち政治に明るい人が必要だ、即ち出口統管を以て他に

人なしと思ふ、神ながらの道を以て指導さるる出口統管に従  
ひ、昭和神聖會の一員として努力する指導者に凡てをまかせ  
て、之について行く事即ち明鏡止水の氣持を以て進むならば  
何事も解決するのだ。

○軍縮會議と國民の覺悟 豫備海軍少將 松 本 忠 左  
ロンドン條約豫備會商を見ると日本は均等權を主張してゐる  
五、五、三の比率ではいけない、獨立國である以上國防は平  
等でなければならぬ、日本の公明正大なる要求に米國は賛成  
しない理由はワシントン、ロンドン條約は研究の結果一番よ  
いものであるから永久的に願つたい、第二には會議決裂の結  
果は建艦競争になる、第三は米國は海岸線が長い等々を以て  
反對してゐるが凡て理由にはならぬ。我國は戦争をせざる爲  
の當然な要求をするものである、國際聯盟脱退に依る制裁手